



# しおかぜ通信

八代市立郡築小学校  
校長 村嶋 博史



郡築小ホームページ

学校教育目標「自ら学ぶ子供」 R7,6,25 No,11

## ボランティアの輪が広がりました

6年生の有志数人が、毎朝、学校の隣にある神社の清掃や校内美化に取り組んでいることは、以前本通信でお知らせしましたところ。このボランティア活動にとっても嬉しい変化がありました。

先週の木曜日の朝（始業前）、交通指導並びに挨拶運動後に、神社清掃に向かうと、いつもよりその人数が多いことに気づきました。話を聞いてみると、5年生の有志数人が今日からボランティア活動に加わったとのことでした。それも自発的にです。

6年生有志の行動を見てそのよさに気づき、自分も加わろうと考え実行したこの5年生有志の行動は、正に学校教育目標「自ら学ぶ子供」の体现であり、その心の豊かさに感心しました。

また、6年生の学級目標の一節にある「背中で教える」の達成の瞬間でもあったので、6年生の喜びもひとしおだったと思います。

これからもボランティア活動（清掃活動）を続ける中で、社会貢献を実感したり、自己肯定感や自己有用感を高めたりして、日常生活を充実させてほしい、人間性を高めてほしいと思います。今後もこのボランティア活動を学校総体で支援していきます。



## 自分の心の線を踏み越していませんか？

6月は多くの学校において大きな行事が少ないこともあり、子供たちが中だるみして不安定になりやすい「魔の月」と言われることがあります。本校では運動会という大きな学校行事が終わった後ということもあり、その傾向がちらほら見え始めています。

ゲーム機や食べ物を校内に持ち込んだり、教師や友達へ乱暴な言葉を発したり、授業中自分勝手な言動を繰り返したり、友達をあおったり冷やかしたりする子供がいます。

本校では、心が乱れ欠けている子供に対して、複数人の教職員（生徒指導主事や教頭、担任以外の教職員など）で関わり、「〇〇しなさい」ではなく、「どうしたの？」、「どうしたいの？」、「手助けできることはある？」の3つの声かけを基本とした関わりをとおして、自己選択を促し、内発的動機付けを高め、その子供の主体的な変容を導くようにしています。目指す子供の姿は、「自己教育力をもった子供」です。

その逆に、自己教育力を高め、4月当初より落ち着いて学習したり、自ら挨拶するようになった子供も確実に増えています。今後もそういう子供のよさや変容は、認め、励まし、伸ばしていきます。

## 児童用机に拡張天板を取り付けました

6月17日（火）、6年生の児童用机に拡張天板を取り付けました。

子供たちは、多くの授業で学習用タブレットPCを使って学習しています。その際、机上に学習用タブレットPCや教科書、ノート、筆箱などを置くことから、整頓しづらく、学習の妨げになることがありましたので、天板拡張器具を購入することとしました。



当初、学校予算で（タブレットPCの使用頻度が高い）5・6年の児童分を購入予定でしたが、他の購入品もあり（予算不足で）1学年分しか購入できなくなったので、PTA会長様及び役員の皆様にご相談したところ、快く了承していただき、残りの1学年分をPTA予算から購入していただきました。

そして、PTA予算で購入していただいた1学年分が届きましたので、早速6年生の机に取り付けました。取り付け後に子供たちに使い心地を聞いたところ、みんな「使いやすい」「勉強しやすい」と言っていました。机上が整頓しやすくなったことで、集中力も向上することと思います。